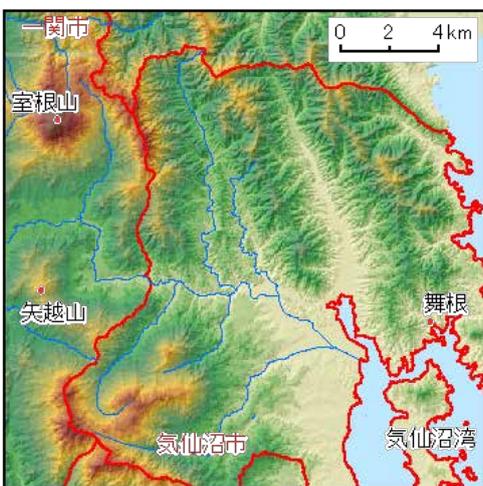


森・里・川・海をつなぐに関する取組事例

事例 1：大川流域における「森は海の恋人」運動

	活動地域	大川流域（宮城県気仙沼市、岩手県一関市） 事務局：気仙沼市唐桑町西舞根 植樹地：一関市室根山・矢越山
	実施主体	特定非営利活動法人 森は海の恋人
	協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼湾の関係者（漁業者、地域住民等） ・一関市室根町の関係者（室根町第12区自治会、一関市、地域住民等） ・植樹祭参加者 ・研究者（京都大学、北海道大学など）
	自然公園	<ul style="list-style-type: none"> ・陸中海岸国立公園 ・気仙沼県立自然公園（宮城県） ・室根高原県立自然公園（岩手県）

活動のポイント

- ・海の豊かさと流域の森林との関係に着目し、漁師が上流域において植樹活動を実施
- ・行政界を越えた流域内での上下流連携が実現
- ・担い手育成を見据えた環境教育を実施

活動の目的

上下流連携による植樹活動や環境教育の活動を通じて「森 - 川 - 海」の関係に対する理解を促進し、自然環境の保全に向けた取組みの普及を図る（人の心に木を植える）。

活動の概要

< 上流域への植林 >

気仙沼湾の漁師が、湾の上流部・大川へのダム建設によって漁場環境が悪化することに危機感を感じ、「牡蠣の森を慕う会」を設立し、上流部の岩手県一関市室根町において植樹活動を開始した。（その後、環境教育に特化した「特定非営利活動法人 森は海の恋人」を設立。）上流部の森林が漁場環境にも関係しているという漁師の経験則等に基づき、特に腐葉土が豊富な広葉樹の植林を行っている。これまでに約3万本の落葉広葉樹を植樹しており、「森 - 川 - 海」の関係を踏まえた河川上流での植林・育林活動を通じて、流域及び沿岸の統合的な自然環境の改善を図っている。

< 子供たちへの環境教育 >

「森は海の恋人」運動の継続と拡大を図るためには、次世代を担う子供たちへの環境教育が重要であると考え、植樹を開始した翌年から牡蠣養殖場や植樹実施地等のフィールドに小中学生を招き、森と海をつなぐについて体験を通じて学ぶプログラムを実施している。このプログラムの参加者は累計で1万人以上にものぼる。

活動の実施体制

実施機関	内容
特定非営利活動法人 森は海の恋人	植樹祭や環境教育イベント等を主催
一関市（旧室根町）	室根山等の市有地を植樹場所として提供
気仙沼湾の漁師、室根町の住民、植樹祭参加者	植樹活動を実施
元北海道大学水産学部 松永勝彦教授	気仙沼湾の生物生産と大川の関わりについて科学的調査を実施

事例 2：榎野川における流域連携の取組

	活動地域	榎野川流域（山口県山口市）
	実施主体	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
	協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山口県 ・ 山口大学 ・ 榎野川流域活性化交流会 ・ 水産研究センター ・ 日本野鳥の会 山口支部 ・ 山口カブトガニ研究懇話会 ・ 榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会 ・ 地域住民 ・ 山口湾の干潟を守る会
	自然公園	なし

活動のポイント

- ・ 「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」による自由な議論と多彩な自然体験イベントの実施
- ・ 上中下流域の役割の明確化と連携
- ・ 地域通貨「フシノ」を活用し、ボランティアを支援
- ・ 漁業権をもつ漁業者の協力を得て沿岸域の活動をスムーズに実現

活動の基本理念・目的

- (1) 自然再生の 3 つの視点(生物多様性の確保 / 多様な主体の参画と産学官民の協働・連携 / 科学的知見に基づく順応的な取組み)
- (2) 『里海』(人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場) の再生

活動の概要

当地域では、榎野川上中流域からの浮泥流入、水質汚濁（生活排水対策の遅れ）、牡蠣の増殖、牡蠣殻の拡大等により榎野川河口域の環境が変化し、魚類、カニ、野鳥等の生息個体数・種数が減少していることや、アサリの不漁等が問題となっていた。

地元漁業者は 2000 年に「榎野川流域活性化交流会」を設立し、上流部の森林組合や地元市等と協力して植樹活動、海の清掃等を開始した。2003 年には、山口県によって『やまぐちの豊かな流域づくり構想』（山口県）が策定され、流域づくりの一環として榎野川河口干潟の再生をさらに効率的に進めるため、自然再生推進法に基づき、「榎野川河口域・干潟自然再生協議会（2004～）」が設立された。協議会は地域住民、NPO、学識者、地方公共団体、関係行政機関からなり、産学官民が連携した榎野川流域の環境保全活動を推進する主体となる。上流から河口まで、明確に役割分担されており、主に以下のような活動が実施されている。

上流域	市民による広葉樹等の植林
中流域	自然豊かな川づくり、生活排水対策による汚濁負荷軽減
下流 / 河口域	干潟や藻場の再生・調査・観察、カブトガニの調査・保護・啓発活動、漁協中心の藻場・干潟保全活動

干潟再生のために漁師と住民ボランティアが協働で行っている「干潟耕転・竹柵立て」や、「アマモ場の造成試験」の実施により海域の環境が向上しており、2008 年には、漁獲可能なアサリが約 20 年ぶりに確認され、2009 年には約 500kg、2010 年には約 250kg が漁獲された。アマモ場についても、

1990年までに多くが消滅していたが、142haまで回復している。

活動に参加したボランティアには地域通貨「フシノ」を配布していることがこの取組の大きな特徴である。フシノは榎野川流域にある協力店（飲食店、森林・漁業組合、民芸品店等）で利用可能となっている。

実施体制及び活動事例

実施機関	内容
榎野川河口域・干潟自然再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> 多様な立場の人が自由に議論できる場の提供 独自の自然体験イベントの提供
山口県自然保護課	<ul style="list-style-type: none"> 自然再生協議会のコーディネーター
山口県環境保健センター	<ul style="list-style-type: none"> 河口干潟の調査（底質、底生生物等） 干潟再生に係る実証試験等の実施
山口大学	<ul style="list-style-type: none"> 榎野川河口域等の調査研究
榎野川流域活性化交流会	<ul style="list-style-type: none"> 山口湾の漁場清掃 長浜等の海岸清掃
山口県水産振興課	<ul style="list-style-type: none"> アマモ場の実証検討事業の実施（株移植、播種試験等の実施）
水産研究センター	<ul style="list-style-type: none"> 竹格子、被覆網を利用したアサリ漁場改善
山口県港湾課	<ul style="list-style-type: none"> 山口湾の深浅測量 海域環境創造工法の検討
日本野鳥の会山口県支部	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥観察等を中心として、自然環境学習の実施
山口カブトガニ懇話会	<ul style="list-style-type: none"> カブトガニの調査、保護、啓発活動の実施
榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> 地域通貨「フシノ」を活用し、ボランティア活動等の促進のためのモデル実験を実施 流域マップ等の作成 流域フォーラムの開催
地元住民・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> 各種の活動に参加

<参考文献・ウェブサイト>

【事例1：海は森の恋人運動】

- ・平成21年度 里地里山自然資源管理モデル検討調査委託業務 報告書（環境省）
- ・NPO法人 森は海の恋人 ホームページ（<http://www.mori-umi.org/index.html>）

【事例2：榎野川における流域連携の取組】

- ・「自然との共生を目指して」p. 21（環境省・自然環境局自然環境計画課）平成19年3月
- ・「榎野川河口域・干潟自然再生全体構想」 榎野川河口域・干潟自然再生協議会、平成17年3月（http://eco.pref.yamaguchi.jp/fushino/about_koso.html）
- ・山口県 報道発表関連資料（http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/201104/018707_f1.pdf）
- ・『「やまぐちの豊かな流域づくり構想」の取組み（山口県）』（内閣官房総合海洋政策本部事務局）（<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/enganiki/jirei/fushino.pdf>）
- ・事業地紹介 [榎野川河口域・干潟自然再生協議会] 自然再生ネットワーク（環境省）（http://www.env.go.jp/nature/saisei/network/law/law1_3_1/k5_a.html）
- ・榎野川流域地域通貨・流域連携促進検討協議会（<http://www.fushino.jp/money/fushino.html>）

【事例3：湖の森と人をつなぐアサザプロジェクト】

- ・『里山の環境学』 pp. 164-172、武内和彦・鷲谷いづみ・恒川篤史 編、（財）東京大学出版会 2001年
- ・第2回日本水大賞 [市民活動賞（読売賞）]「湖と森と人を結ぶ霞ヶ浦再生事業・アサザプロジェクト」（霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議事務局長 飯島 博）（http://www.japanriver.or.jp/taisyo/oubo_jyusyou/jyusyou_katudou/no2/no2_pdf/asaza.pdf）
- ・アサザプロジェクト（NPO法人アサザ基金） ホームページ（<http://www.kasumigaura.net/asaza/02vision/02.html>）
- ・『社会ヲキリヒラク協働プロジェクト：霞ヶ浦「アサザプロジェクト」』
- ・百年の大計 社会の壁を溶かす、イノベーションし続ける文脈作り』（環境省中部環境パートナーシップオフィス、2008年8月30日取材）（http://www.epo-chubu.jp/02_works/Report/source/report_f2_070830_asaza.pdf）